

羅針盤



進路だより No. 12

令和2年12月1日

◇家庭とクラスをつなぐこの進路だよりは必ず保護者の方にも見せてください。

◆府内公立高校の志望調査結果より

今回、3年生やその保護者の方に進路選択の際の資料としてもらうため、11月現在の京都府下全域の進路希望調査集計結果が各新聞に掲載されます。昨日、3年生の皆さんには詳細な『令和3年3月中学校及び特別支援学校中学部卒業予定者の進路希望状況』を配付しました。

さて、この発表を見てどう思いますか？ 京都市・乙訓通学圏の公立高校の受検を希望する生徒7、134人の内、実に9割近くの6、328人の生徒が「前期選抜」の受検を希望しています。普通科の中には倍率が7倍を超える高校もありました（山城・鴨沂・桂）。

さて、みなさんはこの発表を見て、12月の個人懇談に備え、考えをまとめておく必要があります。

今回発表されたのは、前期選抜の倍率であり、第一希望のみを集計したものです。大まかな動向はつかめませんが、細かく分析するためには、少し情報が足りません。

したがって、この数字だけを見て一喜一憂したり、倍率に左右されてしまうことは、あまり感心できません。次の点を配慮しながら、12月個人懇談に向けて、自分の気持ちを固めていきましょう。

① 前期選抜は高倍率…

普通科において、前期選抜では定員の30%しか募集しません。したがって、高倍率となります。厳しいことは言うまでもありません。

② 中期選抜は第1順位が命

中期選抜では残りの定員の90%をそのB校を第1順位で希望した者の中から選ぶ（ステップ1）、残りの10%を他のA校を第1希望で不合格となり第2順位でB校を希望した者と併せて判定（ステップ2）します。このとき、ステップ1の合格最低点より、ステップ2の方が高い得点を要求される場合があります。この逆転現象は、希望者が多いほど小さく、定員ギリギリの学校ほど大きくなります。すなわち、「第2順位は、希望者の少ない〇〇校にしとこ…」という考えは、あまり意味がない事に注意しましょう。中期選抜は、「第1順位で合格」が基本です

③ 「第二志望」は第一志望が決まってから、なお欠員がある場合にみえます。定員割れしそうにない高校を第二志望に書いても、あまり意味がないこととなります。

④公立の志望は、「すべて専願」となります。合格したら、必ず行かなくてはなりません。自分が本当に行きたい高校を希望したか、また(併願で受ける時の)私学との希望順位をしっかりと考えておくこと。

◎これらのことをすべて考慮したうえで、またご家庭でしっかり話をしてもらった上で、

→11月に提出した進路希望調査の変更を希望する場合、

①まず担任の先生に話をしてください。担任の先生と相談し、また保護者の方に確認をしてもらいます。

②進路希望調査プリントを一旦返却します。訂正し、押印をもらい再提出してください。

※〆切は12月3日(木) 期限厳守のこと！

これをもとに資料を作成し、みなさんの進路希望について、3学年すべての先生で、検討をします。そして15日(火)からの三者懇談会に備えます。